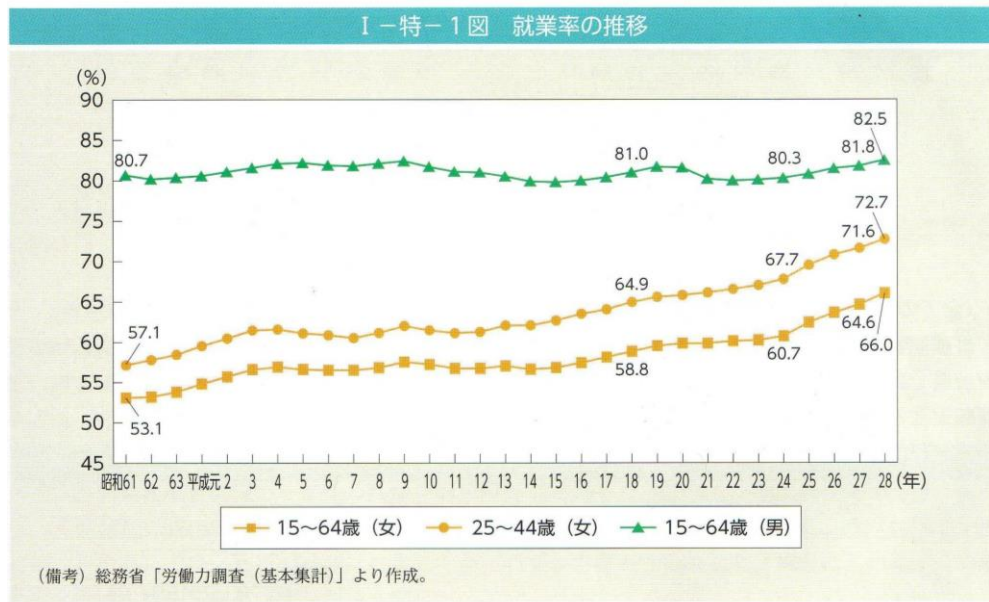


男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

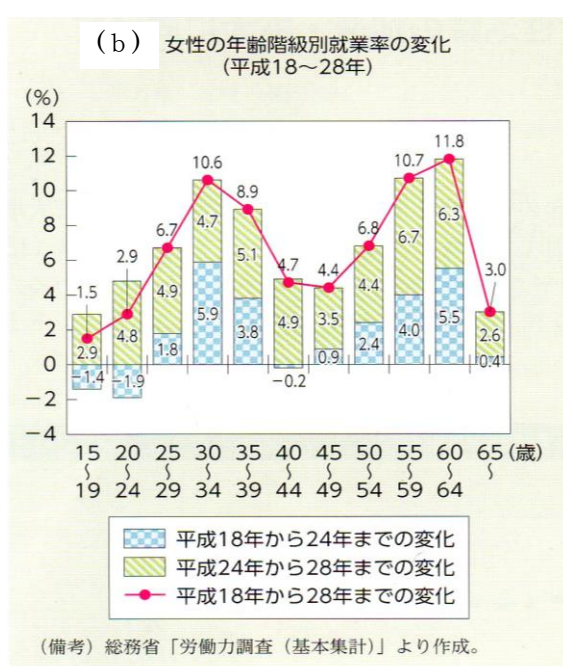
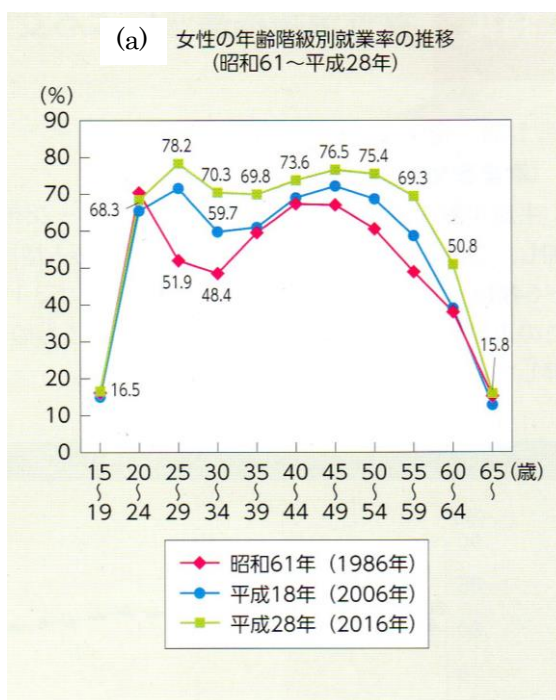
Q33 女性活躍推進法が施行されて1年が経ちましたが、働く女性の活躍の現状はどのように拡大されたのでしょうか。

A33 (1) 生産年齢人口は減少していますが、平成24年～28年の4年間に全年齢総数の就業者数は170万人増加し、このうち女性が147万人、男性が23万人増加し、女性の就業が拡大しました。女性の就業率(15～64歳)は、昭和61～平成28年の30年間に53.1%から66.0%と12.9%ポイント上昇しています。この上昇幅の過半は最近10年間の上昇によるもので、特に最近4年間を見ると、5.3%ポイント上昇しています。(I-特-1図)。



(2) 女性の就業率を年齢階級別にみると、いわゆるM字カーブになっていますが、最近 30 年間にM字カーブの底は大幅に上昇し、窪みが浅くなるとともに、全体的に大きく上方にシフトしています。(I-特-2図(a))。就業率の上昇が高まった最近 10 年間の女性の年齢階級別の就業率の変化について、女性の就業率は全ての年齢階級で上昇し、なかでも、「30~34歳」、「55~59歳」、「60~64歳」は10%ポイント超の上昇になりました。(I-特-2図(b))。

I-特-2図 女性の年齢階級別就業率の変化及び推移



Q 3 4

「すべての女性が輝く社会」の実現は、安倍内閣の目指す一億総活躍社会の中核とされています。そこで全ての都道府県で女性の就業率は上昇していると聞きますが現状をお聞かせ下さい。

A 3 4

平成 17～27 年の 10 年間に、女性の就業率（15～64 歳）は、全ての都道府県で上昇し、35 の都道府県では後半 5 年間の上昇幅が前半 5 年間の上昇幅を上回っていますが、その水準については、地域差が依然大いのです。（I－特－3 図）。

I－特－3 図 都道府県別 女性の就業率（15～64歳）の推移

